

豊田芙雄女史手記「保育の栞」

我國最初の幼稚園保姆豊田芙雄女史の名は讀者の疾くに熟知せらるゝところ、去年夏、私が同女史を水戸の寓にお訪ねした時の記事も、其の後本會が東京にお迎へして、幼稚園懷舊談話會を催した時の記事も、嘗て本誌に掲げて置いた。この「保育の栞」は、同女史が保姆たりし當時の手記にかゝるものであつて、我國最初の保育論の一つである。特に女史の許しを乞ふて、こゝに本誌に紹介することを得るは、獨り本誌の幸であるばかりでなく、我國幼稚園教育史に興味を有せらるゝ諸君の爲に、極めて有益なる資料であると信ずる。殊に文中には、今日の幼稚園としても大に學ぶべきものが尠なくない。眞理は古くして新らしいことを思はしめるのである。茲に女史の好意を感謝すると共に、一言を添へる次第である。(倉橋惣三)

保 育 の 栞

豊田芙雄子述

幼 稚 園

幼稚園とは何ぞ、多くの幼き兒女を集めて其の身の健康と幸福とを保ち而して良き慣習を興へて兒女